



おめでとう

久次米康次さんに
全国会長表彰



▲久次米さん

五月二十三日、洲本市文化体育館で行われた洲本人権擁護委員協議会総会の席上で、久次米康次さん(広田)が、全国人権擁護委員連合会長表彰を受けられました。

久次米さんは、平成十年六月から人権擁護委員を務め、人権に関する問題に熱心に取り組み、現在も活躍されています。

四宮賢さんに
県知事表彰

六月三日、宍粟市山崎文化会館で行われたひょうご健康づくり県民大会の席



▲海の見える遊歩道を歩く参加者

沼島ウォークラリー大会

沼島の魅力を発見 青少年の健全育成に取り組む、兵庫県BBS連盟淡路地区会(豊田章裕会長)では、5月20日、ふるさとの良さを知ってもらおうと「第2回ツールド淡路 沼島ウォークラリー大会」を開催しました。

当日、約30人が参加。神宮寺住職の中川宜昭さん(ぎしやう)から「国生み神話」などについて話を聞き、グループに分かれウォークラリーに出発。沼島にまつわるクイズやゲームに挑みました。

市内各地で中学生が実社会を体験
「トライやるウィーク」



▲保育所で給食のお手伝い



▲旅館のタオルはきれいにたたみます



▲図書館利用者と笑顔で交流



▲新鮮なお魚をきちんと陳列



▲一生涯に溝さらえ



▲明るく元気一杯にお店で接客

中学生が実社会での職場を体験する「トライやるウィーク」が、市内を中心に各事業所で行われました。

この活動は、普段の学校生活を離れ、社会でのマナーやルールを直接体感し、他人への思いやりを学ぶ活動として、兵庫県下で行われているもので、今年でちょうど十年目を迎えました。

南あわじ市では、五月七日から六月一日にかけて期間中(五日間)、中学二年生四百四十一人が、市内百四十一か所の事業所で、仕事の楽しさや難しさを身にしみて感じながら、大人に混じって一生涯に仕事を精を出し、地域社会でのふれあいを深めていきました。

受け入れ先やボランティアの皆さん、お世話になりました。



▲指導を受けながら鬼瓦の製作



▲老人ホームで高齢者と仲良くふれあい



▲「おいしそう」ハウスで丁寧にビワの採り入れ

声の広報「ひこばえグループ」が30号達成

記念に市長、議長メッセージを録音



▲ひこばえグループの皆さん

目の不自由な方へ声の便りをお届けする朗読ボランティア「ひこばえグループ」(赤松照美代表)が、広報南あわじ六月号の録音で発行三百回目を迎えました。

四半世紀にも亘る地道な活動ですが、それを記念して五月二十五日、中田勝久市長と北村利夫議長のメッセージとインタビュー録音が行われました。

グループは、昭和五十七年四月に結成され、七月から

旧三原町の広報紙の録音を開始。当時は、録音機材と収録場所の確保に苦労があったと聞きます。現在は、南あわじ市社会福祉協議会みはら支部の建物内に録音室を設け、朗読奉仕活動を続けています。この日録音した市長と議長のメッセージとインタビューの一部を肉声で編集し、三百号を完成させました。

録音された九十分のカセットテープは、三原地域の視覚障害者の自宅や盲老人ホーム、特別養護老人ホームなどに届け、利用者から喜ばれています。

親子でふれあい野球教室

ふるさとボールパーク

六月二日、父親と子どものふれあいを深めてもらおうと、B&Gグラウンドで「ふるさとボールパーク」が開かれました。

これは、神戸新聞社、オリックスバップアローズ、県立こどもの館の主催で、父親に子育てへの参加を呼びかけ、それが地域の活性化につながることを願って行ったものです。この日、市内スポーツク

ラブ21(賀集、福良、北阿万、潮美台、阿万)に所属している児童と保護者三十七組が参加。元近鉄バップアローズ選手の羽田耕一さんと元オリックスブルーウェイブ選手の田中雅興さん指導のもと、キャッチボールやティーバッティングを、親子ペアになって楽しく行いました。また保護者には「お父さんのための子育て講座」も行われ、親子



▲元プロ野球選手の指導を受ける親子

のきずなを深めた一日になりました。

志知高校の体験授業

いぶし瓦で表札作り

6月6日、県立志知高校の授業で、淡路瓦体験「いぶし瓦の表札づくり」が行われました。国際社会の中で多様な文化を尊重できる人間形成を目的に、今年から県内の高校で「日本の文化」という科目を設け、授業の選択科目として、4月から地域文化・伝統文化を学んでいます。今回は、地場産業の瓦への認識を深めてもらおうと行なったものです。

この日、3年生15人が津井公民館長・登里倭江さんらの指導を受けながら、粘土板に文字やイラストなど思い思いの模様を刻んでいました。



▲登里館長から指導を受けて模様を彫る生徒

兵庫県のじぎく賞

◆桜木初美さん(賀集)

南あわじ市養護老人ホームさくら苑で、茶道クラブを開き、作法を教え、お点前を振る舞うなどボランティアで高齢者が楽しく生活が送れるよう協力されています。

◆山口貴千さん(八木)

保護司として、多年青少年の更正活動や健全育成に貢献され、秋の叙勲を受けられることになり、その記念に市の福祉関連事業への活用を希望し、現金百万円を寄付されました。